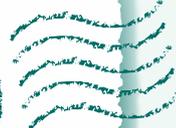




町長コラム

ベア・パル



それぞれの春秋

「死んだ男の残したものは ひとりの妻と ひとりの子ども 他には何も残さなかった 墓石ひとつ残さなかった」

詩人谷川俊太郎氏はどのようなメッセージを世界に投げかけたかったのでしょうか。ここ最近鬼籍に入られる方が相次いでいらして、とても残念に思い、無念でなりません。

生前、お世話になった御礼を述べたくても何もできるものでなく、ただただ故人の業績や治績、生前の触れ合いや話した内容等を思い返してご冥福を祈るのみであります。

故人との深い対話の中でご逝去された皆様は何を残されたのだらうと考えることがあります。おそらく、故人が残したものは何もないではないか、それが日本人の生き方なのかもしれない、と考えてしまいます。西郷隆盛は「児孫のために美田は買わず」と遺しています。残していない、は語弊があるかと思いますが、私はこう思うのです。つまり、故人その人が「作品」である、と。それぞれの人生で、長い時間をかけて築き上げた「作品」は自分自身ではないだろうか。故に人生の終末とともに「作品」は空の彼方に舞い散ってしまいます。誠にはかないものです。

私はここ数年、弓道の稽古に勤しんでいます。武道全般に言えることかもしれませんが、弓道は、礼、道具の扱い方、体配、射法などを通じ、人間を形にはめ、美しい所作を作り上げていきます。先人が武道を通して練り上げてきたものが、弓道の稽古をしているとよく理解できます。弓道には「正射必中」と言われる考えがあるのですが、射法八節（弓を射る際の形）通り手順を踏み、その先人のたゆまぬ努力で蓄積されてきた「形」を素直に実践できれば、必然的に的中（あた）る、という考えです。この手順の根底にあるのも「美意識」だと思えます。どのように体を動かせば効率的かつ美しく射を放てるか。つまり一人一人が弓を射る時に「作品」として美しさを周囲に表現する事が求められている、そう感じるのです。

人ひとりが一生をかけて残すものは、自分自身以外にないのではないかと、従って、人間大事の思想が現れてくるのだと思えます。谷川俊太郎氏の詩は続きます。「死んだ彼らの残したものは 生きている私 生きているあなた 他には誰も残っていない 他には誰も残っていない」

ゆたか

利府町長 熊谷 大

予告

令和4年度

第30回「十符の里-利府」フェスティバル ～ALL RIFU 産業祭～ 開催!

令和4年度第30回「十符の里-利府」フェスティバル～ ALL RIFU 産業祭～を開催します!

参加型の楽しめる体験コーナーや縁日コーナー、産業PRコーナーのほか、充実したステージイベントなど盛りだくさんのイベントです。イベントのフィナーレには利府祭人踊りや花火の打ち上げもあり、子どもから大人まで楽しめます。今年は今利府市で毎年春に開催されている「桜流鎗馬」のデモンストレーションもあります。

また、7月24日(日)に開催したハマスカ体験フェアからスタートした「スーパーカブスタンプラリー」のファイナルミーティングとして、スーパーカブの展示やスタンプラリーの表彰式も行います。

●日時

9月18日(日)午前10時から午後7時まで
(実施するイベントごとに開始時間が異なります。)

●場所

利府町文化交流センター「リフノス」

●タイムスケジュール

- 10:00 スーパーカブファイナルミーティング、飲食ブース開店
- 13:00 「十符の里-利府」フェスティバル開会式 イベントスタート
- 13:30 「桜流鎗馬」デモンストレーション
- 18:00 フィナーレ(利府祭人、利府音頭、花火)
- 19:00 「十符の里-利府」フェスティバル閉会式

※新型コロナウイルス感染症の感染状況によって内容の変更または中止となる場合があります。

※詳細につきましては、決まり次第お知らせします。

☎ 商工観光課 観光係 ☎767-2120

